

北海道地域観光学会誌『COVID-19 特集号』の発刊にあたって

北海道地域観光学会会長 伊藤 昭男

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID - 19）によって人類の生命および社会経済が危機に晒されている。このため本学会も従来どおりの活動の実施は望めない状況に直面している。とはいえ、こうした事態において先見の明に立ち、さらなる学術向上の必要性を追求することは正に学会の責務であると考えます。COVID - 19の発生前において、北海道観光は、インバウンドをはじめとした観光客数の急増がみられ、オーバーツーリズム対策の必要性すら喧伝されていた。観光行動は平和の礎があってこそその現象であり、戦争や災害・事故・事件、そして今回のような疾病によってその水準は大きく低下する。重要なことは単に一喜一憂するのではなく、そうした事態を乗り越えることであり、そのためには事態の発生前の状況を、反省を含めて深く検証し、新たな観光のあり方を探究・実践していくことであろう。その意味で今回の COVID - 19 を今後の北海道観光の質的向上をめざす契機ととらえることも必要であろう。

本特集号は、こうした北海道における観光の量から質への発展を学会の立場から探究することを意図したものである。COVID - 19 を踏まえ、未来の北海道観光のあり方を観光客である需要側、観光産業である供給側、空間的な受け入れ側である住民側、地域の自然環境の持続可能性などの観点からどのように進化させていくべきかを問うことが必要である。本特集号が、その問いかけの契機となるとともに、本学会員による未来の北海道観光に向けた創造的な見解を表現する「場」となることを期待したい。